

内容の要約

教職協働で学習支援に取り組む ー理想と現実のギャップを埋めようー

愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室

清水栄子

研修の構成

1. 学習支援を理解する
2. 所属機関の学習支援を紹介する
3. アカデミック・アドバイジングを理解する
4. 学習支援担当者に求められる行動を考える

研修の目標

1. 学習支援とは何かを自分の言葉で説明できる
2. 所属大学での学習支援の現状を説明できる
3. 所属大学における学習支援担当者の行動指針を作成できる
4. 学習支援に関する多様な考え方や経験を尊重し、参加者間で共に学びあう雰囲気貢献できる

学修支援

学修：大学設置基準上、大学での学び。

大学での学びの本質は、講義、演習、実験、実習、実技等の授業時間とともに、授業のための事前の準備、事後の展開などの主体的な学びに要する時間を内在した「単位制」により形成されていることによる。

(中教審「新たな未来を築くための大学教育の質的転換に向けて」,2012)

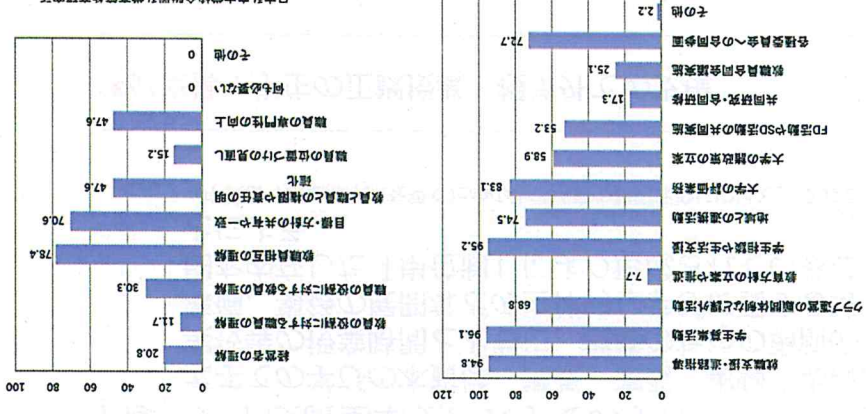
学修支援：学生の正課授業・授業外での支援

学習支援

- 大学院生を含む高等教育機関に学ぶすべての学生と入学を予定している高校生に対して、必要に応じて学業に係る支援を高等教育機関側が組織的・個別に提供する営みまたそのプログラム・サービスの総称
- (谷川, 2012)
- 高等教育機関において、学生が教育課程を効果的に遂行するために整備された総合的な支援体制。履修指導や学生相談、助言体制の整備など。
- (高等教育に関する質保証関係用語集 第3版)
- 本研究での学習支援**
- 単位修得のためのいわゆる学修に対する支援のみでなく、正課外活動も含めた学生の学びに関わる支援

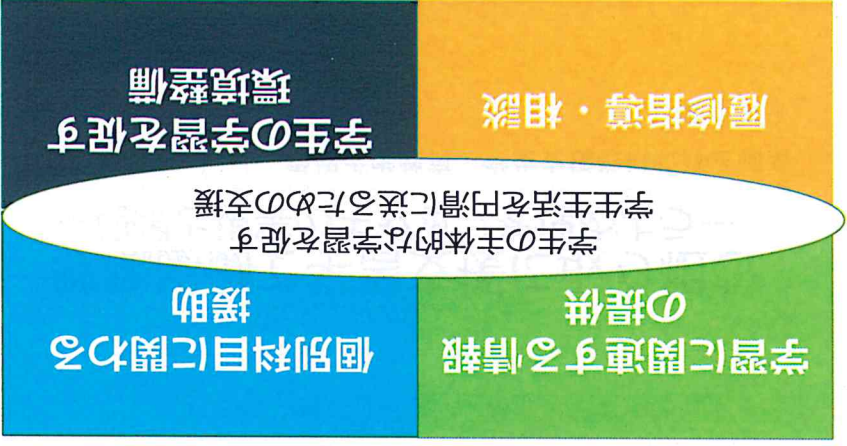
教職協働の現状

■教職協働の取組が行われている分野

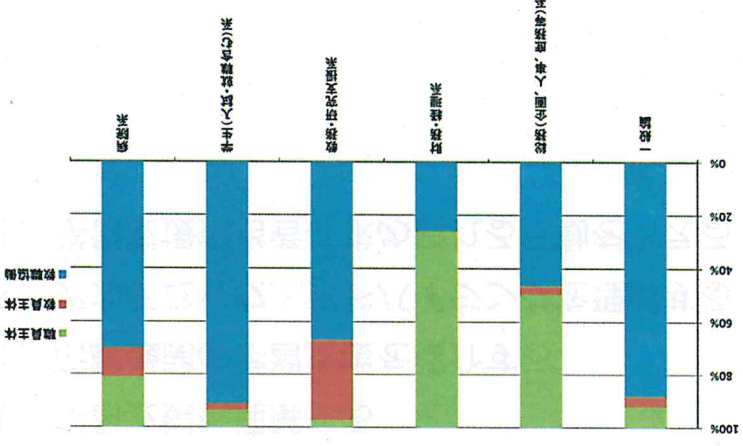


日本私立大学協会附属私立大学等教育研究所「事務局職員協力態勢に関する調査」(2009)

学習支援の内容



業務別に見た教職協働に対する考え方



山本真一(編)広島大学高等教育研究開発センター「教職協働時代の大学経営人材養成方策に関する調査」(2013)

高等教育政策の中の「教職協働」

- 1998年 21世紀の大学像と今後の改革方策について
学内の意思決定に関する基本的な枠組みとして、大学の運営と教育研究に関する機能分担と連携協力の関係を明らかにするという観点から、学長を中心とする大学執行部の機能、全学と学部各機関の機能、執行機関と審議機関との分担と連携の関係、審議機関の運営の基本、事務組織と教員組織の連携の在り方等を明確化する必要がある。
- 2000年 大学における学生生活の充実方策について(報告) - 学生の立場に立った大学づくりを目指して - (廣中レポート)
- 2008年 学士課程教育の構築に向けて
教職員は、学士課程教育の実践に直接又は間接に携わり、相互に連携して管理運営等を担っている。・・・教職員の協働関係の確立という観点からは、FDやSDの場や機会を峻別する必要は無く、目的に応じて柔軟な取り組みをしていくことが望まれる
- 2014年 大学のガバナンス改革の推進について(審議のまとめ)
各大学による一層の改革が求められる中、事務職員が教員と対等な立場での教職協働によって大学運営に参加することが重要

廣中レポート

教員と事務職員の連携強化

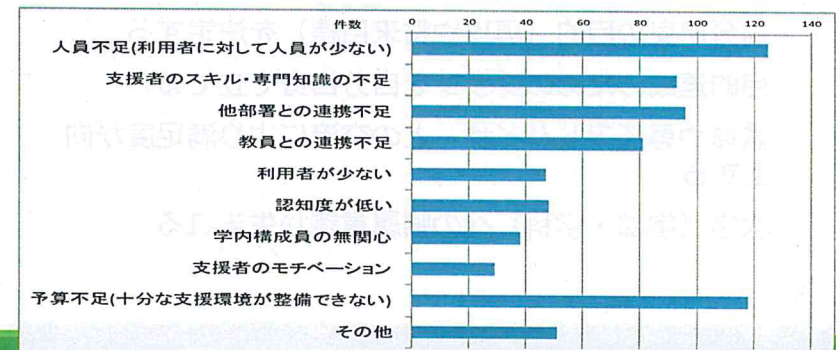
教員と事務職員は、それぞれ異なる立場や視点で、学生と接する機会を持っているが、学生のニーズを踏まえつつ、学生を適切に指導していくためには、教員と事務職員が学生についての諸課題を対等に協議する場を設けるなど、相互に連携・補完しあう体制を整え、学生に対応していくことが重要である。

学習支援の課題

- ・学内の位置づけと目的の明確化
- ・適切な空間の確保と施設・設備の充実
- ・スタッフの充実
- ・カリキュラムと有機的に結合した、より踏み込んだ学習支援
- ・学習支援活動に関する研究データの蓄積と大学を超えた情報の共有

学習支援の課題

- 大学行政管理学会女子大学研究会実施アンケート(2015)
回答数308校(40.3%)



学習支援とアカデミック・アドバイザー

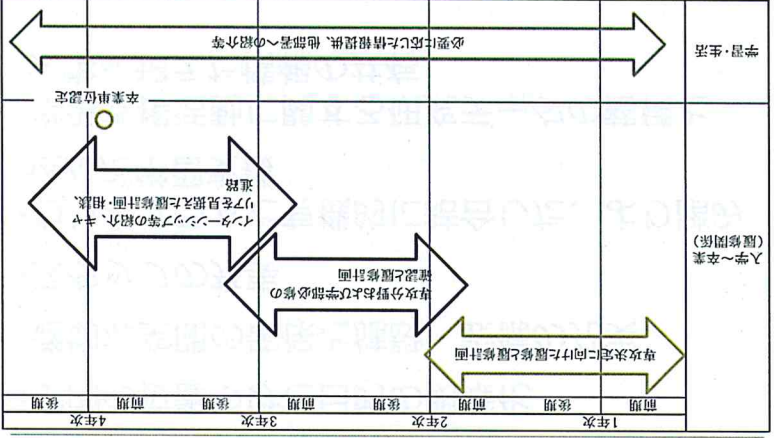


(清水, 2015)

学生にとってのアカデミック・アドバイザー

- ・必要な情報（履修・手続き・カリキュラム等）を得る
- ・キャンパス内の施設・関連部署等について理解する
- ・自分自身の目的（専攻や将来目標）を決定する
- ・目的達成のためのプランを自分自身で立てる
- ・教員や専任アドバイザーとの交流により満足度が高くなる
- ・大学（学部・学科）への帰属意識が生まれる

在学中のイメージ



アカデミック・アドバイザーとは

- 目的：学生本人による学習目標の設定と達成を支援する
- 組織：センター 学科
- 担当者：教員、専任アドバイザー、ピア（学生）等
- 手段：面談（1対1、グループ）、電話、メール、
グループウェア、Facebook、Twitter etc.
- アドバイザーの加盟団体
NACADA (National Academic Advising Association)

大学の規模、分野、目的等により、組織・実践方法等は異なる

担当者の役割

■ 教員

- ・ 専門領域に関する助言、専攻に関わる履修・キャリア等に関する助言
- ・ 学生の興味・関心を考慮し、専門領域へと導く

■ 専任アドバイザー

- ・ 履修に関わる全般的な対応
- ・ 所属大学の政策や諸手続に関する情報提供
- ・ 学生にとって有益な資料や情報・資源の提示等
- ・ 履修科目選択、専攻の決定あるいはその変更等に関わる諸手続の実施や助言
- ・ 卒業要件の確認

17

組織モデル（1）

モデル	実践主体	特徴
教員中心	教員	学科の学生対象。学科内で履修する授業に関わるアドバイジングを実施。
サテライト	教員もしくは専任アドバイザー	専攻が決定するまでは専任アドバイザーのオフィスがアドバイジングを担当。専攻決定後は教員がアドバイジングを担当。入学から卒業まで一貫したアドバイジングを実施。
分担	教員、専任アドバイザー、(ピア)	最初のアドバイジングは学科の教員とアドバイジング・センターで実施。専門・専攻に関することは教員が対応。それ以外はセンターの専任アドバイザーが対応。専攻未決定学生についてはアドバイジング・センターが対応。
二重	教員 専任アドバイザー	専攻に関するアドバイジングは教員が実施。一般的な課題、大学のポリシー、手続きに関してはアドバイジング・センターが担当。専攻未決定学生は専攻が決定するまでアドバイジング・センターが対応。
総合受入	専任アドバイザー	全学生対象にアドバイジング・センターが担当。特別な事情が生じた場合は学科のアドバイジングプログラムに紹介。

(清水,2015)より抜粋

組織モデル（2）

モデル	長所	短所
教員中心	・ 教員と学生との相互交流を促進 ・ 学生が学習課題と実際の学習との関係を理解することを支援 ・ 学問分野やカリキュラム体系に即したアドバイジングが可能	・ 教員は自信の専門分野に関しては知識があるが、それ以外についてはわからないため、専攻未決定学生の支援にはならない ・ 昇進やテニュア・ポリシーに関係がない場合には関与しない ・ 研究や授業に時間を費やすため、アドバイジングの時間が少ない
二重	・ 多様なアドバイジングを提供できる ・ キャンパス全体を通じたアドバイジングの調整体制	・ アドバイジングの責任所在がはっきりしていない ・ 学生はどちらのアドバイザーを尋ねたらよいのかがはっきりしない
総合受入	・ 初期段階に力を入れている ・ 全学生対象 ・ 研修を受けた専任アドバイザーが担当 ・ 接触しやすい	・ ある程度の間関係ができた後、別の担当者に変更 ・ 教員との接触機会不足になりがち

協働体制を促進する方法

■ 共同で会議（打ち合わせ）を開催する

- ・ カリキュラムに関する議論を行い、アドバイジングを行う上での優先事項、教員の希望や課題を理解する

■ 定期的に学部長（学科長）と会合を持ち、個々の専門分野を支援する

■ スケジュールの共同作成

■ オリエンテーションの共同開催

■ 教員の研究内容を理解する

■ 学生の満足度測定について協力する

(Hampton, 2004)

[illegible]

- (Krush & Winn, 2010)

11.53

活用
・新任アドバイザー：自己評価、能力開発

- ・研究者：カリキュラム開発を支援し、学習の質を高め、その分野の研究を進める

・公平な環境の提供と維持の方法

三、實踐



情報 (Informational)

アカデミック・アドバイザーは以下の知識を有している

- ・その機関特有の歴史、ミッション、ビジョン、価値、文化
- ・カリキュラム、学位プログラム、その他の必修（卒業要件）・選択
- ・ポリシー、規程、手続、規則、法規
- ・守秘義務などアカデミック・アドバイジングに関連する法的ガイドライン
- ・現在の学生の特徴、ニーズ、背景
- ・学生を支援するための学内外のリソース
- ・必要に応じたICT技術

関係性 (Relational)

- ・アカデミック・アドバイジングに対する考え方を明確にする
- ・学生との信頼性や関係性を構築する
- ・すべての学生の人格を尊重する姿勢で対応する
- ・アドバイジングの計画を立てて対応する
- ・カリキュラムの論理性や目的について学生の理解を促す
- ・問題解決、意思決定、意味づけ、目標設定、計画設定を促す
- ・担当者として、常に自己評価を忘れず、アドバイジングに従事する

研修の目標

1. 学習支援とは何かを自分の言葉で説明できる
2. 所属大学での学習支援の現状を説明できる
3. 所属大学における学習支援担当者の行動指針を作成できる
4. 学習支援に関する多様な考え方や経験を尊重し、参加者間で共に学びあう雰囲気に貢献できる

参考文献

- Hampton, B. (2004) Developing Partnerships between Faculty and Professional Advisers
<https://dus.psu.edu/mentor/old/articles/040324bh.htm> (2018/8/1)
- Krush, J. M. & Winn, S. (2010) Professional Advisors and Faculty Advisors: A Shared Goal of Student Success
<http://www.nacada.ksu.edu/Resources/Academic-Advising-Today/View-Articles/Professional-Advisors-and-Faculty-Advisors-A-Shared-Goal-of-Student-Success.aspx> (2018/8/1)
- NACADA: The Global Community for Academic Advising (2017) Academic Advising Core Competencies Guide, NACADA
- 小川洋 (2012) 「学習支援センター」『大学における学習支援への挑戦』ナカニシヤ出版
- 清水栄子 (2015) 『アカデミック・アドバイジングその専門性と実践—日本の大学へのアメリカの示唆』東信堂

